

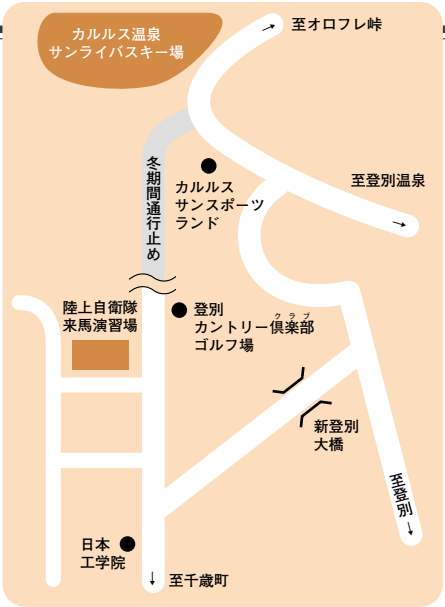
第23回全道ハンディキャップスキー大会日程

開催日 2月22日(金)～24日(日)
 競技会場 クロスカントリー競技…陸上自衛隊来馬演習場(札内町)
 アルペン競技…カルルス温泉サンライバスキー場(カルルス町)

▼ 2月22日(金)		▼ 2月24日(日)	
15:00～15:30	開会式	クロスカントリー競技	
15:30～16:00	選手会	10:10～12:00	A 申告タイムレース
16:00～16:30	伴走者との顔合わせ	アルペン競技	
18:00～20:00	懇親会	9:40～10:20	A タイムレース兼タイムトライアル
▼ 2月23日(土)		10:30～11:30	A 申告タイムレース
クロスカントリー競技		13:00～14:00	閉会式
10:10～12:00	A タイムレース	競技クラス説明	A…上級・10キロメートル
	B・C タイムトライアル		B…中級・5キロメートル
13:00～15:00	B・C 申告タイムレース		C…初級・3キロメートル
アルペン競技		アルペン競技	A…上級・約1,000メートル
10:15～11:30	B・C タイムトライアル		B…中級・約500メートル
13:00～15:00	B・C 申告タイムレース		C…初級・約200メートル

問い合わせ 第23回ハンディキャップスキー大会実行委員会事務局(社会福祉課内) ☎1911

※大会会場は冷え込みますので、暖かい服装でお越しください。



吉野 仁さん

「事故に遭ったときは、『人生が終わった』と何カ月も落ち込みました。義肢装具士として登別厚生年金病院に勤務している吉野仁さん(46歳)は、21歳のとき、バイク事故で右足のひざから下を失うというハンディキャップを負ってしまいました。

1本スキーで2年連続の優勝を目指します

「スキーは、年齢や体力などに合わせた滑り方をすれば何歳になっても楽しめます。そして目標も、他人との戦いであつたり、自己への挑戦であつたり、多種多様です。私にとつてスキーは『生涯スポーツ』です」と話す佐藤さんはスキーをこよなく愛しています。



佐藤 勝明さん

自衛隊幌別駐屯地の演習場を借りて競技を行います。昨年の夏から会場の札内のコースの下見や計測などを行い、現在、最終調整中です」と話す佐藤さんの笑顔には準備の順調さが伺えます。

「事故に遭ったときは、『人生が終わった』と何カ月も落ち込みました。義肢装具士として登別厚生年金病院に勤務している吉野仁さん(46歳)は、21歳のとき、バイク事故で右足のひざから下を失うというハンディキャップを負ってしまいました。

「私が手話のボランティアをしているのは、だれかを助けたいというのではなく、さまざまな人と出たいからです」と話すのは、聴覚に障害をもつ選手の手話通訳や、会場内のスキーパトロールなどとして参加する予定の濱田一夫さん(48歳)。濱田さんは、室蘭聾唖協会に所属し、手話ボランティアとして活動しているほか、登別温泉熊舞の会のメンバーとして活躍しています。

ボランティアは自己満足の道具ではありません

「私が手話のボランティアをしているのは、だれかを助けたいというのではなく、さまざまな人と出たいからです」と話すのは、聴覚に障害をもつ選手の手話通訳や、会場内のスキーパトロールなどとして参加する予定の濱田一夫さん(48歳)。濱田さんは、室蘭聾唖協会に所属し、手話ボランティアとして活動しているほか、登別温泉熊舞の会のメンバーとして活躍しています。

「スキーは、年齢や体力などに合わせた滑り方をすれば何歳になっても楽しめます。そして目標も、他人との戦いであつたり、自己への挑戦であつたり、多種多様です。私にとつてスキーは『生涯スポーツ』です」と話す佐藤さんはスキーをこよなく愛しています。

でも、右ひざ下のみの切断だけで済んだ自分は恵まれていると思いました。1本スキーを始めたのは、昭和54年。子どものころから山スキーで遊んでいたし、航空自衛隊に所属していたころ、スキーの訓練をしていましたので左足だけでも十分滑ることができると思っただけです。ハンディキャップスキー大会には、第1回大会から出場しています。その後、義肢装具士の資格を取得するため、一時期、欠場していましたが、ここ数年はずっと出場しています。昨年の大会では、アルペン競技の1本スキータイムレースで優勝することができ、今回は2連覇できるように頑張りたいと思います」と大会に向けての意欲を話してくれました。

「ボランティアは、『お手伝いをしてあげる』のではなく、『ともに』という考え方だと思っています。それが障害をもつ方が普通に生活を営むことができるノーマライゼーションにつながる

「ボランティアは、『お手伝いをしてあげる』のではなく、『ともに』という考え方だと思っています。それが障害をもつ方が普通に生活を営むことができるノーマライゼーションにつながる

スキーに対する思いはみなさん同じ

今回のリポートを通して、障害というハンディキャップをもちながらスポーツに取り組む人たちの強い精神力やバイタリティーを知り、改めて尊敬を覚えました。そして、大会に参加される選手のみなさんは、心から『スキー』というスポーツを楽しんでいます。

「私が手話のボランティアをしているのは、だれかを助けたいというのではなく、さまざまな人と出たいからです」と話すのは、聴覚に障害をもつ選手の手話通訳や、会場内のスキーパトロールなどとして参加する予定の濱田一夫さん(48歳)。濱田さんは、室蘭聾唖協会に所属し、手話ボランティアとして活動しているほか、登別温泉熊舞の会のメンバーとして活躍しています。

「私が手話のボランティアをしているのは、だれかを助けたいというのではなく、さまざまな人と出たいからです」と話すのは、聴覚に障害をもつ選手の手話通訳や、会場内のスキーパトロールなどとして参加する予定の濱田一夫さん(48歳)。濱田さんは、室蘭聾唖協会に所属し、手話ボランティアとして活動しているほか、登別温泉熊舞の会のメンバーとして活躍しています。



濱田 一夫さん

あなたも市民リポーターになって、市内の話題やまちの動きなどをリポートしてみませんか。平成14年 度市民リポーターについての申し込み・問い合わせは情報推進課(広報広聴) ☎6586()まで。